

今年の夏も研修会でお逢いしましょう！

また、夏の研修会をお知らせする季節がやってきました。

今年の目玉は、『コンピュータ教育の担当者向け』コースを新たに設けたことです。「学校へコンピュータが導入され、担当者になったのだが、何をどう進めていったらよいかわからない」というような不安を訴えられる方が最近増えています。また、「担当をしているのだが、なかなか思うように行かない」という話しもよく聞きます。この企画は、私達の豊富な経験をもとに、そうした先生方を応援しようというものです。他では聞けない様々なノウハウを紹介する予定ですので、期待してして下さい。

それから、毎年行ってきました『コースウェアの作成』コースは今回設けません（32 - 18だけはさらっと行いますが...）。コースウェアの作成を本格的に勉強したい人は、長野県大池自然の家で行われる研修会に参加して下さい。

ECO News主催の研修会を次の通り開催します。参加希望者は別紙申込書により申し込んで下さい。とくに募集要項を必要とする方は、ECO Newsまでご連絡下さい。

主催 ECO News
協賛 シャープシステムプロダクト株式会社
会場 シャープ株式会社・栃木研修所
講師 中山和彦、東原義訓

（筑波大学学術情報処理センター）
余田義彦、垣花京子、山野井一夫
（東京家政学院筑波短期大学）他
申込方法 参加申込書により、5月31日までに郵送またはFAXで、ECO News係宛に申し込んで下さい。参加の可否は、6月20日までに、ご連絡いたします。

インストラクター研修会

各地域で、スタディ関連の研修会を企画立案されている方、運営にあたられる方、インストラクターの方、今年もまた矢板に集合しましょう。

期日 平成6年7月24日（日）20：00（集合）～26日（火）16：00（解散）

参加者 約20名
（以下の条件を満たしていることが必要です）
・今年度に地域研修会の実施を計画していること。
・ECO News関連の研修会への参加経験があること。
・地域研修会企画案を申込書に添付し、アドバイスを受けること。

参加費 ECO News負担
内容 ・今年度の研修のあり方
・CAI授業記録から学ぶ個別指導のあり方
・教師用画面から何を読み取るか
・校内運営の秘訣・コースウェア開発の秘訣
・最新情報：Windows対応スタディタイム他

スタディ中央研修会

Aコース〔コースウェアの利用者〕と、Bコース〔スタディ担当者〕の二つのコースを用意しました。「より満足できるCAI授業をめざしたい人」はAコースで、「係として、どのようにして校内の稼働率を上げていくかを考えてみたい人」はBコースで、それぞれ体験を通して研修していただきます。どちらも初心者を対象としています。

児童生徒のためにコンピュータを使ってみたいと考えている方なら、コンピュータに関する経験は問いません。ただし、コンピュータ操作の研修会ではありません。

期日 平成6年7月30日（土）9：30（集合）～8月1日（月）16：00（解散）
*夕食後も午後10時まで研修を行います（合宿形式）。

参加者 Aコース30名、Bコース20名（予定）
参加費 25,000円

（宿泊費、食費、テキスト代など）
内容 Aコース〔コースウェアの利用者〕
・コースウェアに秘められた指導法
・教師用画面から湧き出る診断情報
・CAI授業記録から学ぶ個別指導
・CAI授業中の教師の役割は何か
Bコース〔スタディ担当者〕
・優れたコースウェアとは
・報告記「CAI教室運用の秘訣」
・コンピュータ教室の環境整備
・校内研修のあり方

地域研修会

4ページに、各地域で行われる地域研修会の予定を掲載しています。そちらも併せてご覧下さい。



カブリの街グルノーブル（後編）

筑波出版会 花山 亘

私の数々のパフォーマンスの中で、彼らに一番アピールしたのは、もともと筑波大学で体育学を専攻した私が、サラモンのスキーセットを一式購入して（日本の定価の5分の1）、1人でスキーに出かけたことであった。滑ったスキー場はアルペデュアゼで、日帰りできる最良のスキー場だ。ゲレンデの上の方のロッジにすら、ボーイのいるレストランがあって、デザートまでついてくるところが、正にフランスの優雅さを感じさせてくれた。

グルノーブルの中心街は、気のきいたレストランやショップが古い街並みを飾っているが、パリなどと比べれば落ちついた田舎街で、最大のレジャーは、スキー。サラモンやロシニオールといった日本でも人気のブランドは、このまちの地場産業である。学生時代にアルペンのチャンピオンにもなったというラボルデ教授をはじめ彼らにとって、スキーは特別の意味をもっている。研究室では、ウィークデイの日帰りのスキーは羨望的となり、皆が雪の様子やサラモンのニューモデルについてなどいろいろ聞いてきた。

アルプスを滑ったことで、すっかり研究室の一員のようになった日本からの珍客、つまり数学の判らない訪問者に、スタッフが色々提案をしてくれた。

高校からの内留生ベルナルド・カッポーニ先生はフランス国内のカブリ実践集をまとめて「Cabri-classe」の出版を準備していた。翻訳して日本語版も出してみてもそのコピーを下さった。セルジ・セコーニ先生のマンガ的なイラストレーションがなかなかよくて、フランス語を全く理解できなくても、この数学者の描いたイラストが笑わせてくれる。

マックドローProで描かれたイラスト類やロゴ、カラーポスターなどを、フロッピーに詰め込んで持ちかえているので、何かの機会に読者の皆様の目に触れる機会もできると思う。その他、セイルスプロモーション用のシールやバッジやTシャツ、更にはオリジナルフロッピーまでおみやげにももらった。

さて、2～3日でカブリを仕上げてもらって、早めにパリに引上げる予定でTGVのチケットを予約していたが、ベルマン氏が、オリジナルソフトの改良点も盛り込みながら、修正に取り組んで下さったため殆ど1週間滞在することになった。おかげでこの伝統とハイテクが同居する奇妙な田舎街の魅力にすっかりとりつかれることになった。ホテルのボーイさんやスキー店のスタッフなど知り合いも増え、住んでみたいと思えるまでにいたってしまった。

もともと「JALで行く華のパリ10日間」という12万円程の激安パッケージツアーで行けば、日本からパソコンを発送するときの送料や関税より安いぞということで始まった今回のツアーもあと1日残すだけのグルノーブルの最終日の夜、日本語版の修正作業がついに終了した。実にハラハラしたが、これで来た甲斐があったというわけだ。

グルノーブルで仕事をしたことのある日本の友人から、必ず行くように薦められていたレストラン「ラ・パンセ」（胃袋の意）に、功労者のベルマン氏、ラボルデ教授夫妻、チェコから20時間かけてバスで来たというイワンさんを招待して、お礼のフェアウエルパーティーを、自分で開催した。

グルノーブル自慢の郷土料理は、ステーキやポテトなどかなりこってりしたフランス料理のフルコースで、さすがにデザートチーズには手が伸びなかったが、私の人生でも最良のディナーとなった。

食事中、日本語独特の縦書きプリントの話題から漢字の話になり、私が「日本で活躍しているハンガリーの数学者が、漢字を覚えることで日本の子供の数学力が向上している」といっていると云ったら、ラボルデ教授が興味を示して、名前を聞いてきた。「ピーター・フランクル氏」だと答えたら、「ピーターは日本に居るのか！」と奥さんのコレットさんも一緒に驚き、懐かしがっていた。以前グルノーブル大学にいたそうだ。（「ピーターにも是非カブリの応援団になってもらうように」とのことで、彼の渋谷のオフィスにカブリを送ってある）

とにかく、フランスの天才的な数学者が、10数人も集まって、1本のCAIソフトの開発を日々行っているのには、本当に驚かされたし、ホワイトボードを使って突然始める数学者の哲学的な議論を脇で見ながら、ヨーロッパの伝統的なアカデミズムの持つ独特の空気を胸いっぱい吸い込むことができた。

カブリは「並のソフトでは無い」との認識と心構えで、多くの日本の子供たちに「楽しめる数学」というフィロソフィーを届けていきたいと考えている。

筑波大学公開講座のお知らせ

『校長研修：これからの教育になぜコンピュータが必要か』と題する公開講座が、下記の日程で開催されます。もちろん、対象は校長先生です。定員にまだ少し余裕があるそうです。実施要項を必要な方は、ECONews係りまでご連絡下さい。

- ・日程 7月11日（月）～12日（火）
- ・場所 筑波大学（茨城県つくば市）

補助機能スタディネットについて（続報）

No.33（1993.11）で、スタディネットの補助機能だけを使えるようにするインストールの概要を紹介しました。今回は、その具体的な方法を詳しく紹介します。

1．準備するもの

- ・STUDYNET V2.1（MZ2861用はV2.0C）以上のマスターディスク
- ・DOSのシステムディスク（ハードディスクにインストールする場合不用）
- ・新しいフロッピー（システムフォーマット済のもの、ハードディスクにインストールする場合不用）

2．インストールの具体的手順

PC98, FM, DOS/V, AX の場合は、STUDYNETマスターディスクの中のINSTNU.EXEを起動し、画面の指示に従い操作することで、インストール済ディスクが作成できます。（ハードディスクにインストールした場合は、¥NETUディレクトリにインストールされ、起動手順もNET.BATに登録されています。）

MZ2861 の場合は、マスターディスクをコピーします。コピーしたディスク上で、INSTNU.BATを起動します。

3．使用上の具体的手順

フロッピーの場合は、インストール済ディスクを起動します。また、ハードディスクの場合は、¥NETUディレクトリのNET.BATを起動します。

通常のスタディネットと同じメインメニューが表示されますが、メニュー項目の表示色が異なります。補助機能は白、それ以外は青で表示され、青色表示の項目は使用できないようになっています。

ネットワーク型のスタディタイムをスタンドアロン型としても使えます！

スタディタイムのフロッピーをネットワーク型とスタンドアロン型の2種類用意しなくてもよくなりました。ネットワーク型の生徒番号入力で999と入力すると、スタンドアロン型に変身するのです。

これを行うには、インストールされた環境に留意して転送指示など使用環境を設定しなおす必要があります。この作業は、通常、販売店が導入時に行っているものですが、未設定や変更の必要がある場合は、次の手順で行って下さい。

1．スタディタイムの起動環境の変更

SETEXEで「教材のRAMディスクへの転送」を「する」に指定し、転送ドライブを設定する。

2．RUN.BATファイルの変更

スタディタイムの起動手順を書いたRUN.BATファイルに、RAMディスクのファイルを消す行を追加し、その動作に必要なYという名前のファイルを作ります。

・RUN.BATファイルへの追加

次のようにRUN.BATに命令を一行追加し、TMPが示すRAMディスク内のファイルを削除できるようにします。<や>の記号を間違えないで下さい。

```
ECHO OFF
DEL %TMP%*. * < Y > NUL      この1行を追加して下さい
SET EXEMODE=5
```

・'Y'ファイルの作成方法

このファイルは、RUN.BATと同じディレクトリに、次の手順を参考にして作って下さい。

```
A>COPY CON Y Enter
```

```
Y Enter
```

```
CTRLキーを押しながらZ
```

```
Enter
```

```
1個のファイルをコピーしました（と表示されます）
```

```
A>
```

CD-ROMでもコースウェアを
入手できるようになります！

E C O Newsに寄託されたコースウェアは、これまでフロッピーを利用して配布してきました。最近、学校へCD-ROM内蔵のコンピュータが普及してきましたので、それに対応し、CD-ROMでの配布も予定しています。（このサービスの開始は、E C O News誌上で連絡いたします。）

CD-ROMのために必要となる消耗品費は、フロッピーの場合と、ほとんど変わらなくなっています。また、人件費や送料まで考慮すれば、CD-ROMを利用したほうが安いとも言えます。それに、CD-ROMを利用することで、今後増加が予

想される映像や音声を含む教材の相互利用も容易になります。

これから、コンピュータを導入する場合には、CD-ROMドライブもぜひ考慮して下さい。

また、すでにコンピュータが設置されている学校でも、可能な限り、CD-ROMドライブを増設することを検討してみてください。とりあえず1台あれば、コースウェアの相互利用に役立ちます。もちろん、各コンピュータに付属していれば、本格的なマルチメディアC A Iが可能となります。

現在開発中のWindows対応のスタディタイムは、映像や音声に容易に扱える点に特徴があります。これから、CD-ROMはなくてはならない媒体となるでしょう。



先日、ある方が書かれたカブリに関するレポートを読ませていただきました。それには、カブリへの要望が書かれていたのですが、その多くは、私にでもすぐにお答えできるものでした。

同じような要望をお持ちの方もいらっしゃると思いますので、今回は、それらの要望とお答えを、Q&A形式で紹介させていただきます。

Q1 続けて同じ作図をする場合、その都度、メニューを選ばなければならないのは面倒です。

A1 **[GRPH]**キーと**[A]**キーを一緒に押すと、同じ動作を繰り返すことができます。

ヘルプボタンのところに同じ図の名前（線分、点、垂線など）が表示されます。すぐ表示されないことがあります。しばらく押してして下さい。表示されれば、作図可能です。

Q2 作った図を元の形を崩さずに動かすことができません。図形全体を大きくしたいのに、一部一部を動かさなくてははいけません。

A2 全体を動かすには、次のようにします。**[CNTL]**キーを押すと、手のひらが表示されます。そこで、**[CNTL]**キーを押したまま、動かしたい方向へマウスをドラッグします。

図を縮小したいときは、**[M]**キーまたは**[-]**キーを押します。また、図を拡大したいときは、**[P]**キーまたは**[+]**キーを押します。

Q3 正方形または正三角形などの選択があって、そのボタンをおすとすぐ作れればいいと思います。

A3 正方形や正三角形のマクロを作って、構成のメニューへ登録しておいてください。一辺をクリック

すれば正方形や正三角形を簡単に作図できるようにすることができます。（マクロの作り方はマニュアルを見て下さい。）

Q4 円を描くメニューが2通りあり、操作（ドラッグとクリック）が違うため、円がかけない生徒がいました。「3点を通る円」を加えて、操作を統一して下さい。

A4 ドラッグで作図する円と直線は、コンパスと定規での作図にはないものです。題意によって使い分けますので、別に指導して下さい。

「3点を通る円」も前の正方形などと同様にマクロを作って登録して下さい。「中心と円周上の点による円」もマクロ登録すれば、構成のメニューの中に並べて作図することができます。

Q5 「平行線」を引くとき、「点」が作図されていないと作図できません。KR情報などを出して、1点を決めれば平行線が引けるようにして下さい。

A5 カブリは、残念ながら、作図手順が正しく指定されない場合、警告音を発するだけです。数学の定義に基づいて作図するようになっているため、定義を知らないと作図できないのです。

ですから、例えば、小学校で三角形は3点から成り立っているということを知らない児童に使わせることはできません。このような場合には、指導の時に工夫して、平行線は直線と1点で決まることを理解させて下さい。（垂線の場合も同じです。）

Q6 方眼紙の機能をつけてほしいのですが....。

A6 NEC版には、残念ながら、方眼紙の機能はありません。あらかじめ、対称点の作図と平行線、垂線の作図を利用して方眼紙を作ってファイルに保存しておき、それを生徒に与え、その上に作図させておられる授業を見たことがあります。

夏の地域研修会

次の地域から、地域研修会の日程の連絡がありました。

福井県福井市	6月13日～14日
静岡県磐田市	7月29日， 8月4日～5日，8日
長野県新野高原	8月1日～3日
兵庫県丹有地区	8月2日～3日
茨城県つくば市	8月3日～5日
愛知県豊田市	8月6日～7日
福井県大野市	8月9日

長野県大池自然の家	8月9日～11日
大分県中津市	8月11日～12日
高知県佐川町	8月17日～18日
愛知県東海市	8月20日～22日
大阪府貝塚市	8月22日～23日
茨城県取手市	8月22日～23日
埼玉県坂戸市	8月22日～24日
広島県呉市	8月25日～26日

以上の他に、熊本県など幾つかの地域で計画が進んでいるようです。

編集後記 学校用グループウェア「スタディノート」インターネット対応版がいよいよ動き始めました。このソフトに関しては今まで詳細をお伝えせねばと思いながら、つつい書きそびれてきました。次回こそ、頑張ってお知らせします。期待して下さい。（ここまで書いたら書かざるをえない..?）(^_^)（余田）

連絡先

〒305 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学
学術情報処理センター 4F ECO News係
Tel. 0298-53-2454 Fax. 0298-53-2983